

【令和7年度】都道府県の枠組みを超えた探究プラットフォーム構築

小規模校を中心とする構成校35校程度に対して以下の取り組みを実施。都道府県を超えて探究活動を進めるための各種資源を共有するプログラムおよびプラットフォームの事例創出と並行して、持続可能な取り組みに移行するための運営方法の検証。またオンライン連携活動が生徒・教員に対して有する効果について調査を行った。

令和7年度の主な活動

学校間での探究的な学びの機会の構築・実施

●オンライン合同授業

- ・3-5校の授業時間を合わせ、年3回の合同授業を実施
- ・小グループ内部で探究活動の相互共有・コメント

連携の効果を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通じた振り返りを共有・可視化し、手軽に事後閲覧できる形にする(オンライン掲示板の活用等) ・生徒が主体となり交流活動をすすめる運営形態への移行
自走可能な運営形態	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局と学校の役割分担を見直し、実施の手引き等を整理した上で各校に運営事務を担ってもらった授業スタイルの実証 ・連携校各校が有する人的資源(教員・地域とのつながり)の活用

プラットフォーム構築に向けた取り組み

●テーマごとの生徒マッチング/サポーター人材バンク/教員横連携

連携の効果を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・連携事例を創出し、複数の活用パターンを抽出する ・学校間の情報発信を継続的に行い、教員間の連携事例を創出する
自走可能な運営形態	<ul style="list-style-type: none"> ・連携活動が自発的に起こるための各校への情報提供や促し方法を検証

本取組の趣旨の普及に向けた方向性

1. エリア単位でのプラットフォーム構築

・持続可能性の観点からは、学校間の関係性を継続的できる規模で基盤構築することが重要である。一定のエリア単位でプラットフォームを整備することが現実的であると考えられる。

2. 目的に応じた活動の使い分け

・他校との合同活動は、授業内で一斉に参加する形と、個別の希望に応じて参加する形の大きく2つがあり、それぞれに有する機能が異なる。学校の実現したい学びに応じて、連携活動の実施方法を選択できるようにすることが望ましい。

3. コーディネート機能の確保

・学校間で共有された情報や人などの資源を活用するためのコーディネート機能が求められる。生徒間のマッチングの可能性や、新たな資源の接続を継続的に行う機能が必要である。

成果および課題

●オンライン合同授業

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通じた振り返りを共有・可視化し、手軽に事後閲覧できる形にすることで、探究活動に対する具体的なアイデアやヒントにつながる可能性が示唆された(「活動を通じて探究活動に変化があった」生徒の割合向上:昨年度比) ・活動を視野の広がりや意欲向上が見られ、学校によってはマイルストーンとして探究の進捗に肯定的な作用 ・活動準備にかかる負担を軽減した授業パターンの検証およびツール類の開発
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・参加する全生徒がテーマに即した専門的なアドバイスを受けることは難しい ・非同期での深いめいには限定的であり、生徒同士の効果的なフィードバックには支援の設計がさらに必要であることが明らかになった ・複数校で到達目標を厳密に共有することの難しさ

●テーマごとの生徒マッチング/サポーター人材バンク/教員横連携

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの浸透による活用数増加【関心マッチング・サポーター人材バンク】 ・生徒の連携パターンの開発・分類【関心マッチング】 ・活用をスムーズに行うための準備フォーマットの開発【関心マッチング】 ・教員同士が互いに頼りあう関係の構築(調査の相互依頼等)【教員横連携】
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・連携の継続的実現には仲介者によるコーディネート機能が必要【共通】 ・エリア単位で人材プールを構築する等の構造がないと再現性が担保しにくい【サポーター人材バンク】

目的に応じた連携活動の使い分け(例)

	活動内容	機能
①合同授業	<ul style="list-style-type: none"> ●対象: 学年全員 ●内容: 探究活動の相互発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動に対する意欲の向上 ・多様な視野の獲得 ・自分の意見を他者へ伝えることへの自信【効果的な対象者想定】 ・探究活動の意欲が高まらない・迷っている生徒
②サポーター活用・個別交流	<ul style="list-style-type: none"> ●対象: 希望者 ●内容: テーマに応じた相談 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った具体的な方法やアイデアの獲得【効果的な対象者想定】 ・探究活動の進め方が固まっており、テーマに沿った専門的な意見交換を必要としている生徒